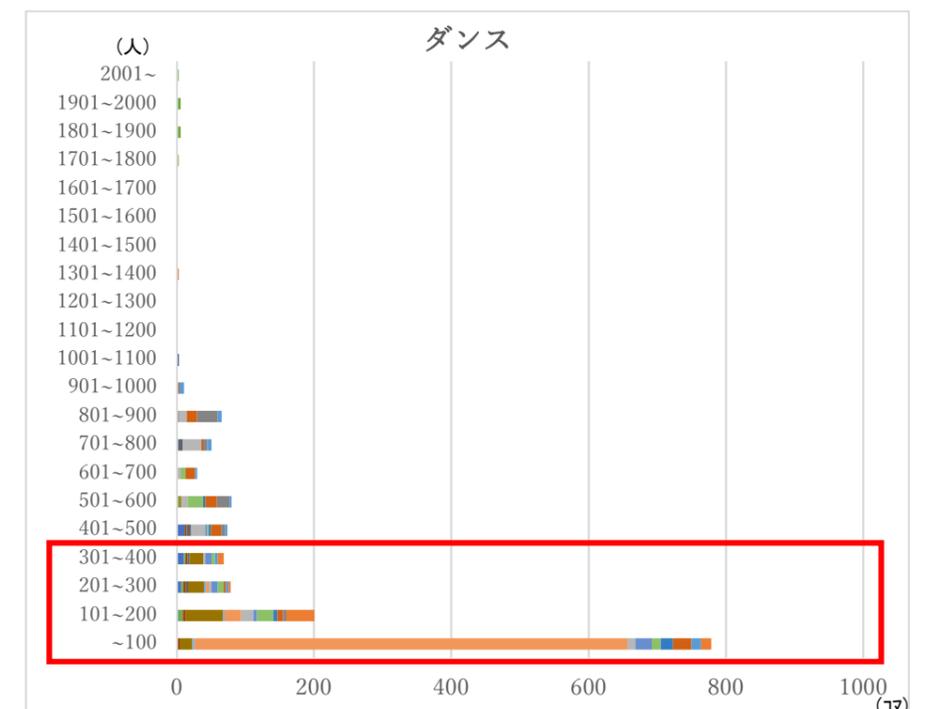
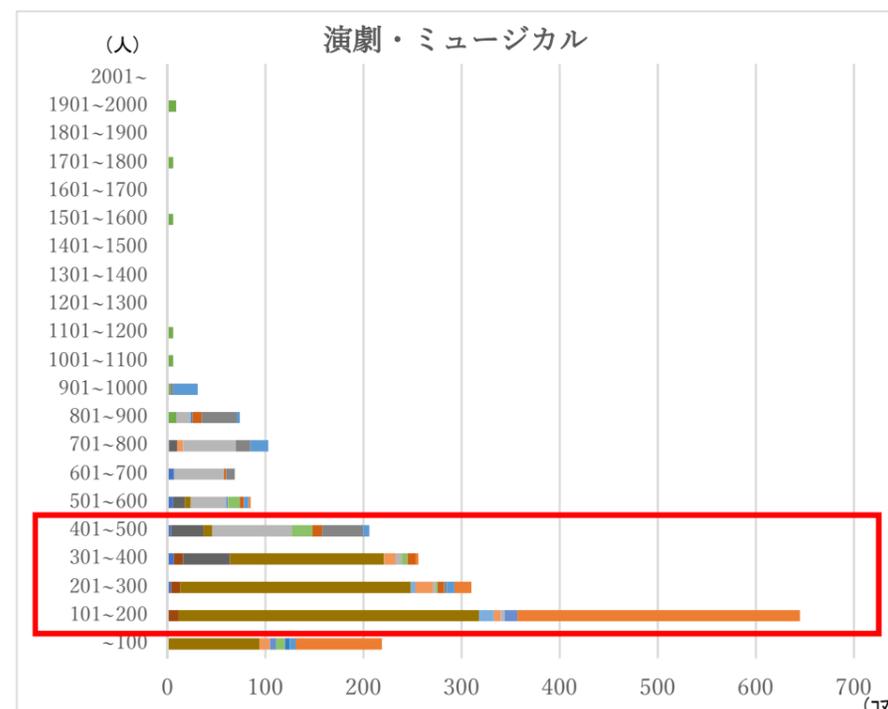
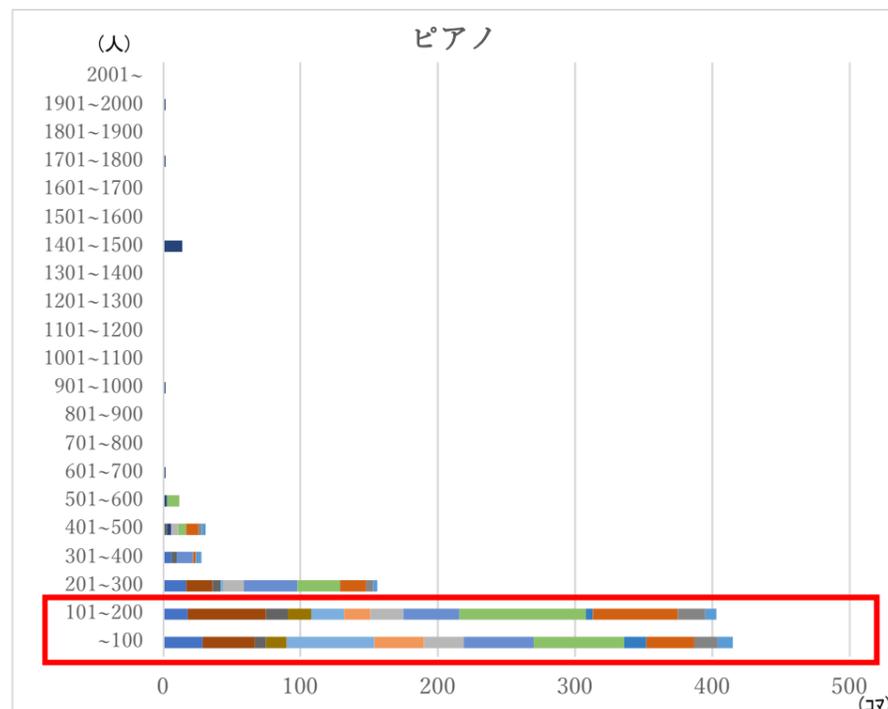
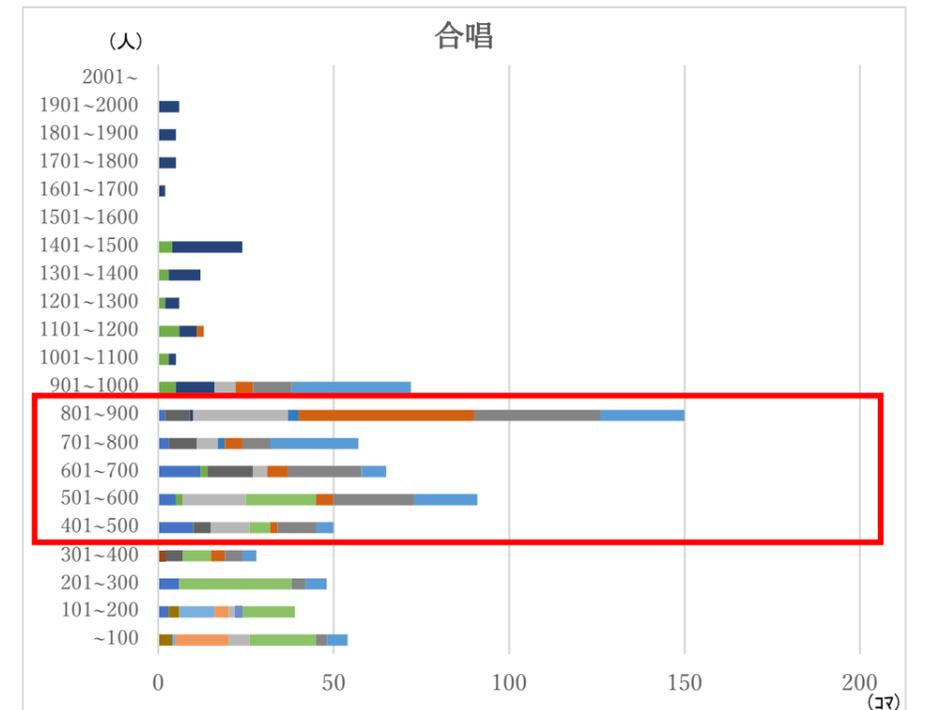
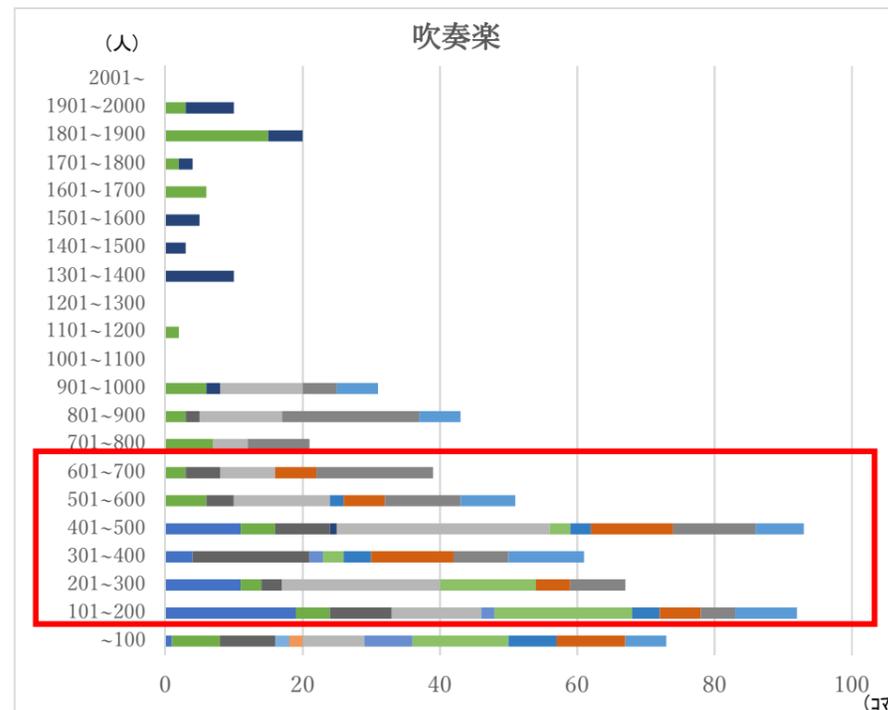
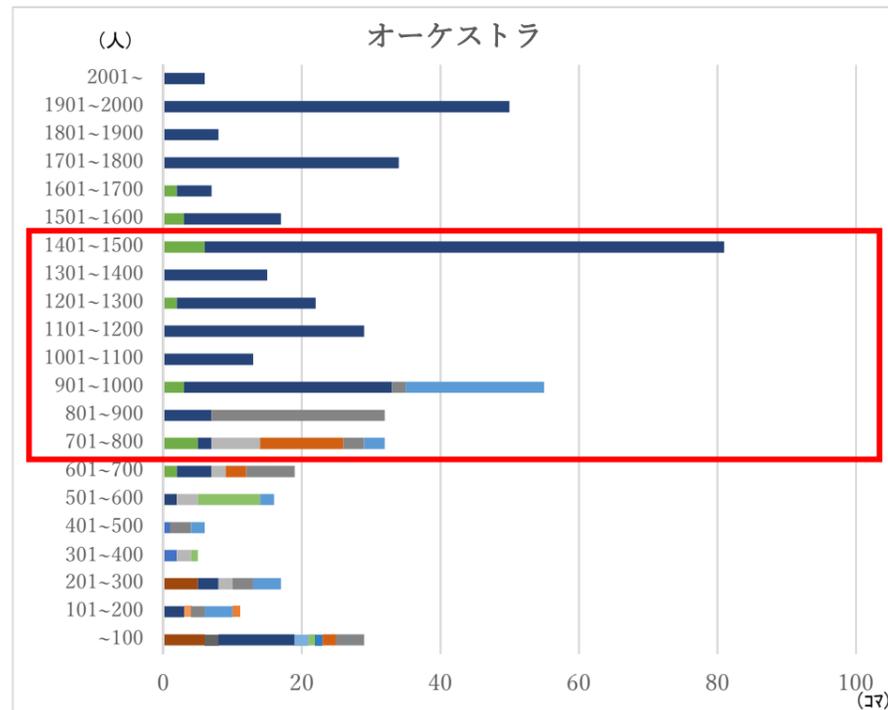


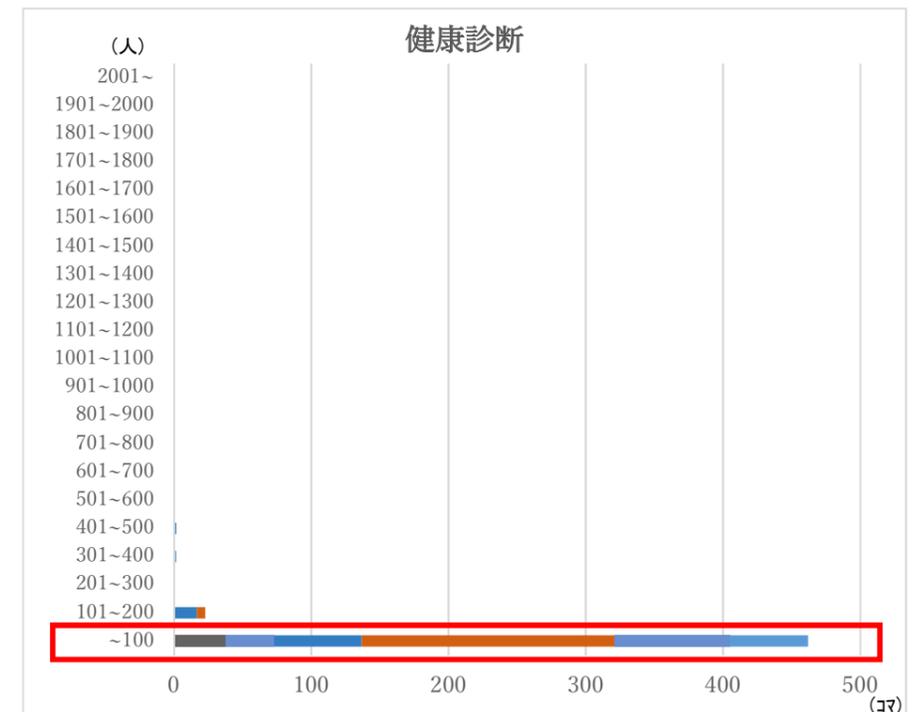
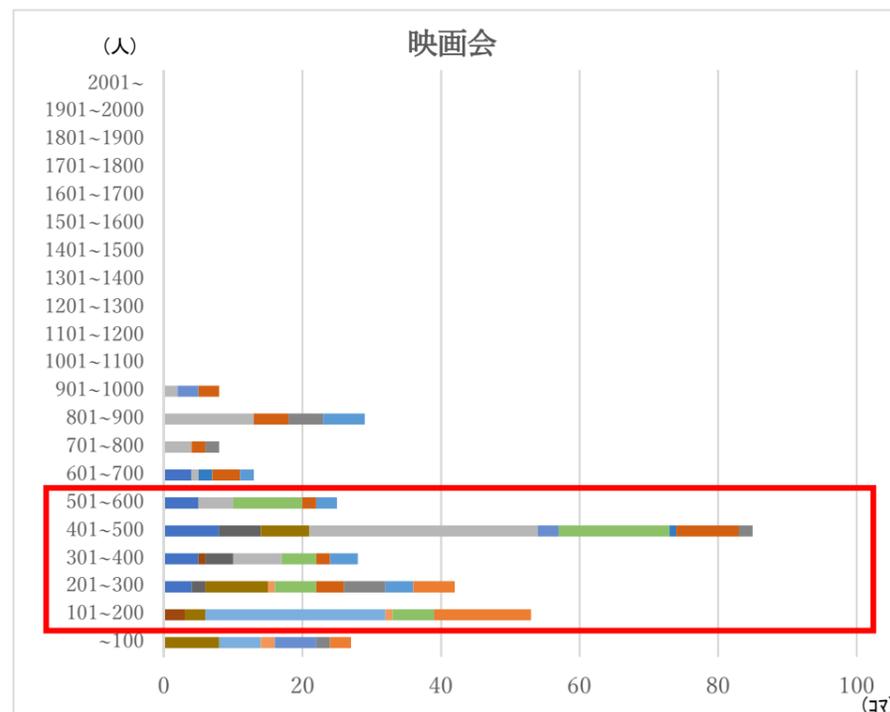
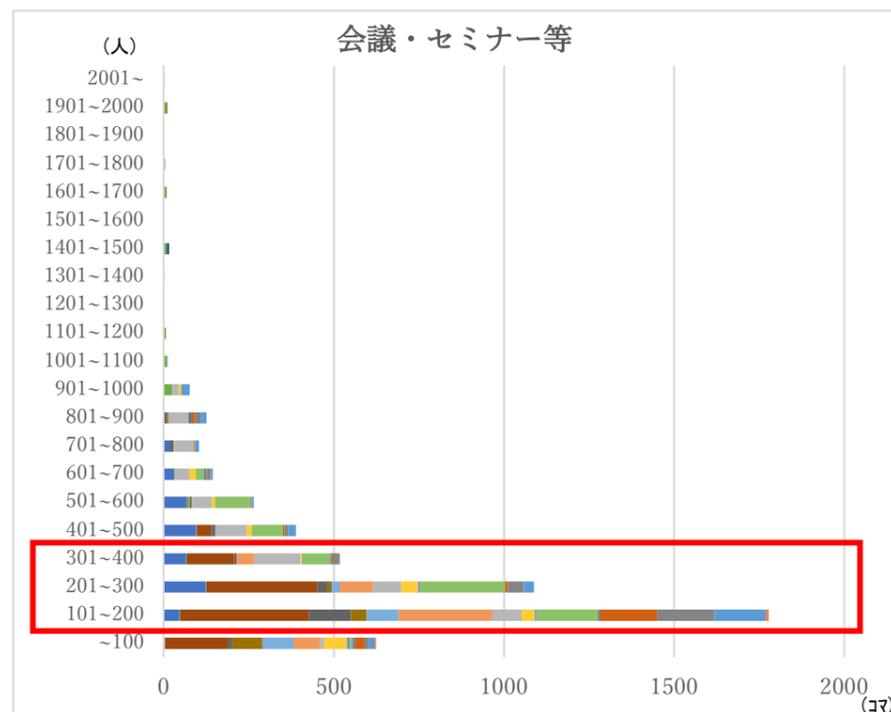
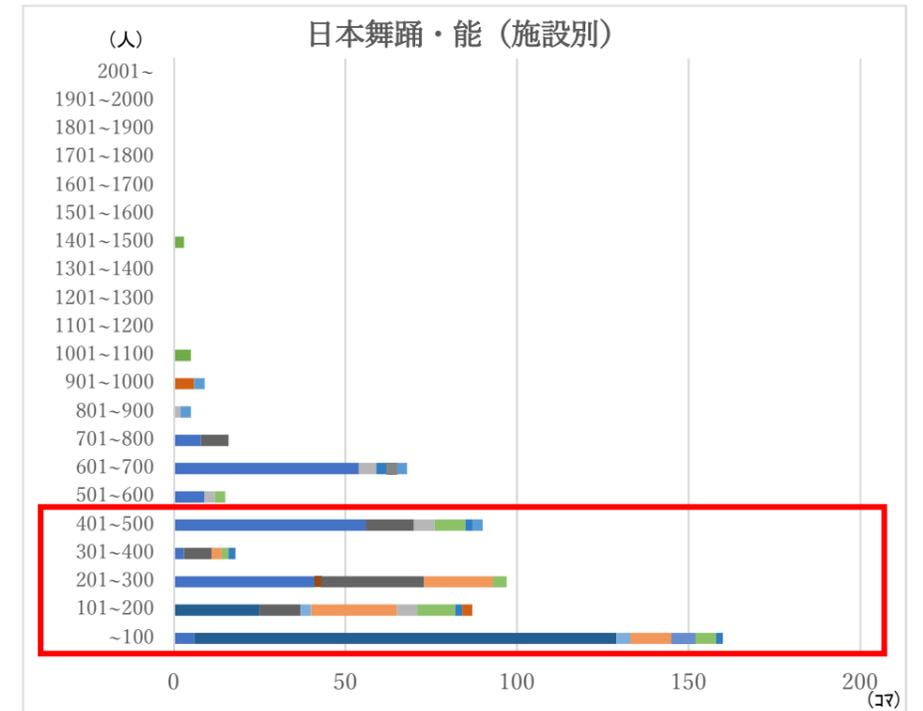
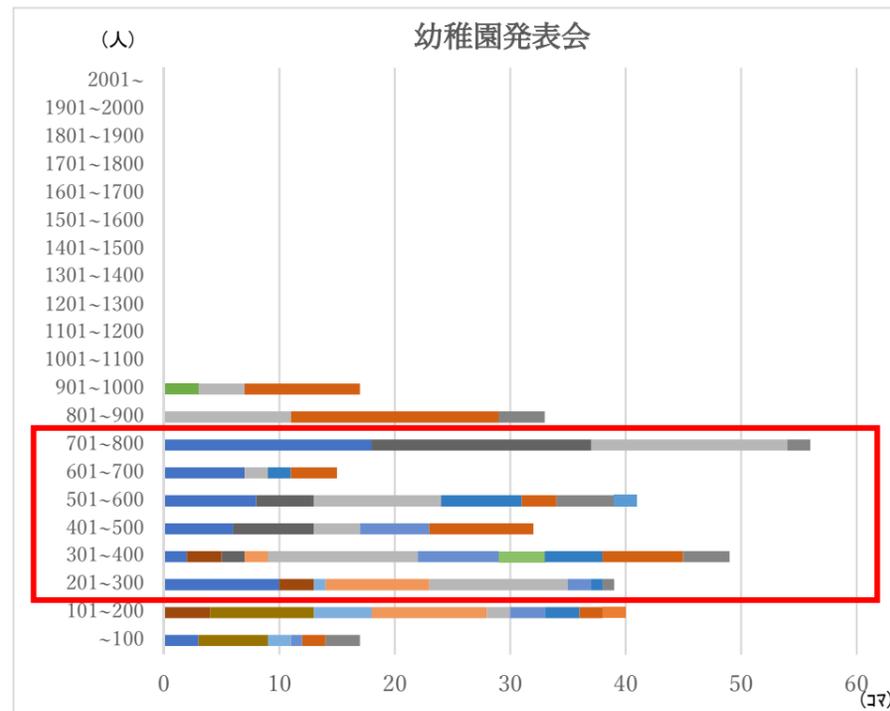
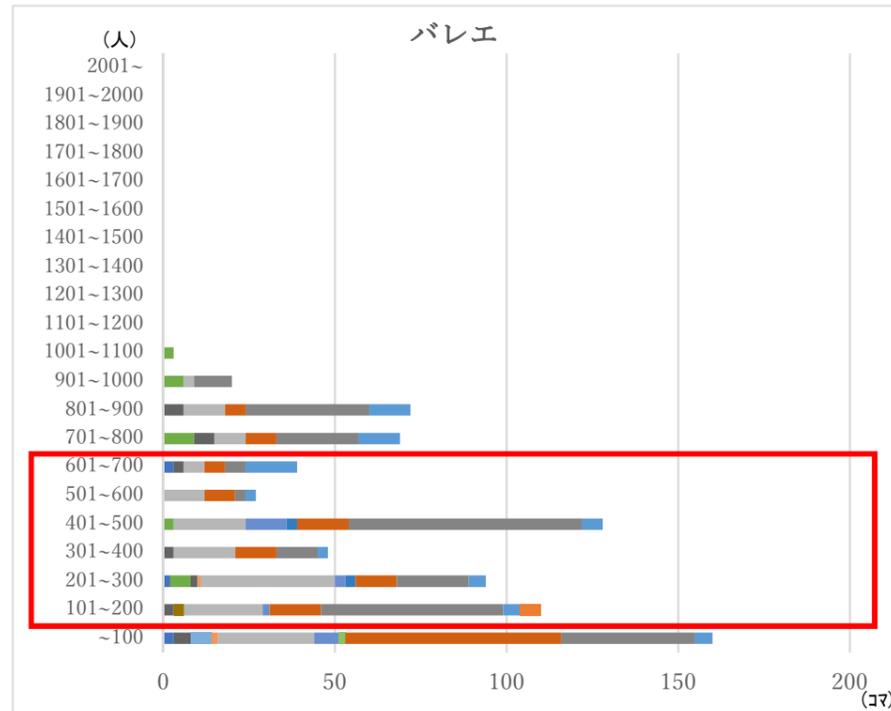
## 1. 概要

利用用途別に求められる施設規模（客席規模）が異なることから、利用者データを用いて、本番利用時の各用途に必要な客席規模について分析を行った（「基本的な考え方」での利用用途分類を一部細分化）。分析にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、平成 28 年度～平成 30 年度の 3 年データを母集団とした。

## 2. 利用用途別の利用客席数

各利用用途において、100 人毎の利用人数（客席数）に対する利用コマ数（全 19 ホール合計）の整理を行った。利用人数の少ない方から数えて、25%目～75%目のデータの範囲を赤枠にて示している。オーケストラでは 701～1500 人の範囲となっているが、ピアノでは 0～200 人の範囲となっているなど、利用用途により、必要となる利用客席数が異なっていることがわかる。





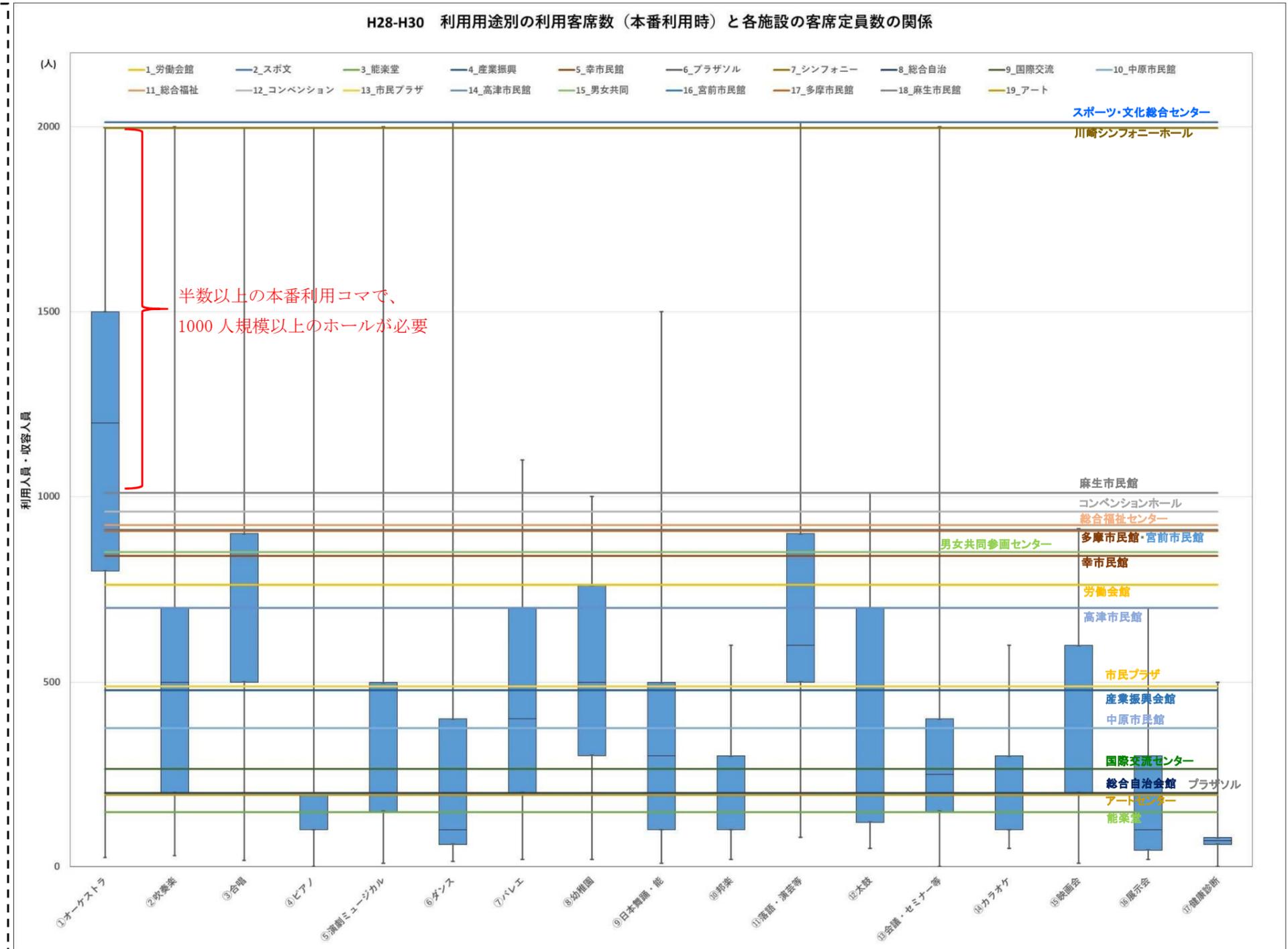
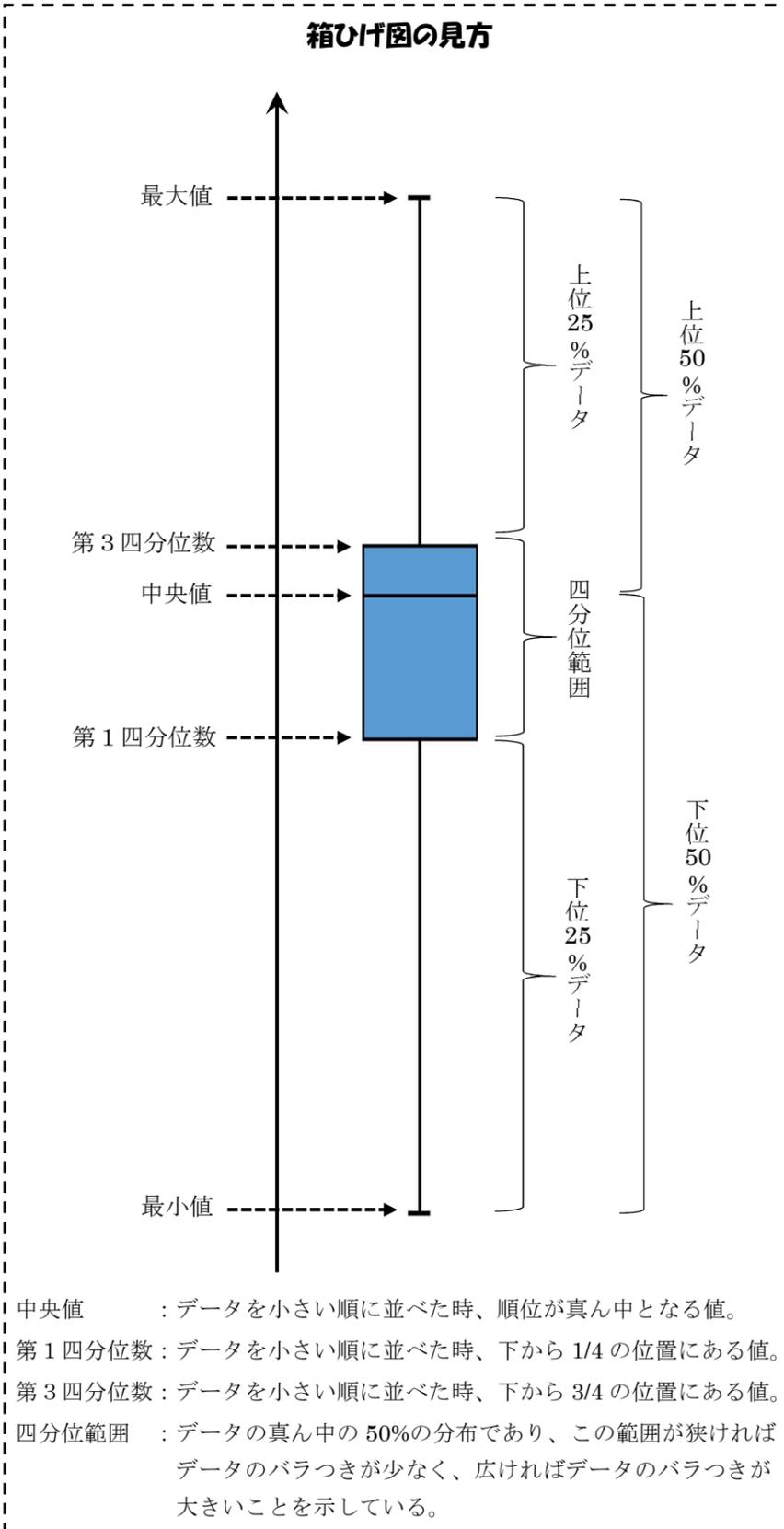
■ : 川崎市労働会館、■ : スポーツ・文化総合センター、■ : 川崎能楽堂、■ : 川崎市産業振興会館、■ : ラゾーナ川崎プラザソル、■ : 川崎シンフォニーホール、■ : 幸市民館、■ : 川崎市総合自治会館、■ : 川崎市国際交流センター、■ : 中原市民館、  
■ : 川崎市コンベンションホール、■ : 川崎市総合福祉センター、■ : 川崎市民プラザ、■ : 高津市民館、■ : 川崎市男女共同参画センター、■ : 宮前市民館、■ : 多摩市民館、■ : 麻生市民館、■ : 川崎市アートセンター

また、利用用途によって、極端に大きい（または小さい）値があるなど、データにバラつきがあることから「箱ひげ図」でも各利用用途の状況整理を行った。

下表のとおり、利用用途により、必要となる利用客席数が異なっていることがわかる。

オーケストラでの利用においては、半数以上の本番利用コマで1,000人規模以上のホール（該当するホールはスポーツ・文化総合センターと川崎シンフォニーホール）が必要となっているが、それ以外の用途での利用においては、半数以上の利用コマについては10施設の客席規模で対応可能となっている。

また、オーケストラ・吹奏楽・バレエ・太鼓の様に、同一用途における利用客席数にバラつきが大きい利用用途がある一方で、ピアノ・会議・セミナー・健康診断の様に、同一用途における利用客席数にバラつきが少ない利用用途がある。



必要な客席数は、オーケストラのように1,000人以上の大規模な客席数を必要とする用途から、ピアノのように200人程度の中小規模の客席数が適当と考えられる用途もあり、利用用途によって必要とする客席数には違いがある。そのため、各ホールの役割分担検討には、利用用途別の必要客席数の傾向を踏まえる必要がある。